

キリガ、ヒマラヤハガタヨトウ、オオハガタヨトウ、ミドリハガタヨトウ(以上セダカモクメ亜科)がある。最終的には、両地域を合わせると50種近くが記録されるものと思われる。

環境評価への利用価値を高めるためには、さらに多くの地点、シーズンにおいて糖蜜採集を繰り返してデータを蓄積する必要がある。そして、少なくとも、飛来したすべての種を記録し(言いかえれば、種をもれなく押さえておくだけでも、環境との関係をそこそ論ずることができるということである)、理想的には全個体を採集することが望ましい。このような調査を各地で実施しデータを蓄積してゆけば、キリガ類の分布パターンや発生期が明らかになり、ゼフィルスや他の昆虫に負けず劣らず、環境評価の指標分類群としての利用価値はますます高まるであろう。

そうは言っても、年末や年度末のクソ忙しいときに「会社帰りに糖蜜採集」は簡単ではない。ちなみに、以前私は、何とか案をして効率的に採れないかと思ひ、バタフライトラップのようなものをこしらえたことがあったが、まったく話にならなかった。不思議なことだが、人工物に貼りつけた糖蜜にはキリガはほとんど集まってくれないのである。やはり、天気のよい日を選んでコツコツと積み重ねるしかないさそうである。

#### 謝辞

現地調査にご協力いただいた杉浦直人、園田光市、森川恒光、森谷正之、堀江寿彦の各氏、標本の閲覧の際にお世話になった大阪市立自然史博物館の金沢至学芸員に、この場を借りてお礼申し上げる。なお、本調査の一部は、兵庫県立人と自然の博物館の自然環境情報調査の一環として実施されたものである。

#### <引用文献>

- 服部 保・武田義明・赤松弘治・島ゆかり, 1997. 六甲山系現存植生図.兵庫県六甲治山事務所.  
環境庁, 1981. 大阪府現存植生図. 第2回自然環境保全基礎調査(植生調査). 環境庁.  
杉 繁郎, 1982. ヤガ科. 日本産蛾類大図鑑. 講談社.  
杉 繁郎, 1994. Post-MJ Edition 1, 日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更. 日本蛾類学会.  
八木 剛, 1996. ゲンゴロウのすむ環境とは? - 「生物による環境評価」再考. 昆虫と自然31(6):

9-12.

YAMAZAKI, K., 1998. Communities of Early Spring Noctuid and Thyatirid Moths (Lepidoptera) Molluscs-trapped in Secondary Forests. Entomological Science 1(2): 171-178.

(YAGI TSUYOSHI 三田市弥生が丘6  
兵庫県立人と自然の博物館系統分類研究部)

### 燈火に飛来したウラクロシジミ 高島 昭

筆者は、1998年春から氷ノ山南麓の波賀町坂の谷林道で蛾を目的とした夜間採集を行っているが、蛾以外にもいろんな昆虫が飛来する。また、飛来する昆虫を狙ってカエルやヤモリもやってくる。クロヒカゲやコムシジミなどのチョウも時折姿を見せるが、それに混じってウラクロシジミも飛来した。本種の燈火への飛来例はあまりないと思うので報告しておく。

ウラクロシジミ 1♀ 26.VI.1998 P.M8:30頃

波賀町坂の谷 alt.800m付近

光源には20W蛍光灯 2本(昼光色及び青色)とブラックライト 1本を併用していた。採集地は溪流沿いの林道で、付近には本種の食樹であるマンサクも多く、本来の生息地であると思われる。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)